

## 宇宙利用の現在と未来に関する懇談会 第1回会合 議事要旨

### 1. 日時

令和2年7月6日（月） 16:00～17:30

### 2. 場所

中央合同庁舎第8号館8階 特別大会議室

### 3. 配布資料

資料1-1 「宇宙利用の現在と未来に関する懇談会」について

資料1-2 宇宙利用の現在と未来に関する懇談会名簿

資料1-3 「宇宙利用の現在と未来に関する懇談会」の検討背景

資料2-1 スカパーJSAT株式会社 提出資料

資料2-2 株式会社パスコ 提出資料

資料2-2参考 株式会社パスコ 提出資料

資料2-3 さくらインターネット株式会社 提出資料

資料2-4 一般財団法人日本情報経済社会推進協会（JIPDEC） 提出資料

### 4. 出席者

内閣府特命担当大臣 竹本 直一

内閣府大臣政務官 今井 絵理子

イノベーション総括官 赤石 浩一

#### 構成員（敬称略）

角南 篤（座長）、石田 真康、井上 博文、大貫 美鈴、川添 雄彦、重定 菜子、  
白坂 成功、山崎 直子

#### スペースオブザーバー（敬称略、※はオンライン参加）

稲川 貴大（※）、岡島 礼奈、尾曲 邦之、川口 剛、倉原 直美（※）、  
小堀 加奈絵、多屋 公平、中ノ瀬 翔、西川 孝典、袴田 武史（※）、樋口 崇則、  
三原 与周、牟田 梓（※）

#### ゲストスピーカー（敬称略）

三森 丞（スカパーJSAT）、石塚 高也（パスコ）、坂下 哲也（JIPDEC）

宇宙開発戦略推進事務局長 松尾 剛彦

宇宙開発戦略推進事務局参事官 中里 学

### 5. 議事概要

#### （1）宇宙利用の現在と未来に関する懇談会について

竹本大臣、今井政務官からの挨拶の後、資料1-1、資料1-2、資料1-3に基づいて、本懇談会の趣旨や検討背景について事務局から説明を行った。

#### （2）宇宙利用の現状について

資料 2-1 を用いてゲストスピーカーの三森様（スカパーJSAT）、資料 2-2 及び資料 2-2 参考を用いてゲストスピーカーの石塚様（パスコ）、資料 2-3 を用いてスペースオブザバーの牟田様（さくらインターネット）、資料 2-4 を用いてゲストスピーカーの坂下様（JIPDEC）から、宇宙利用の現状についてそれぞれ発表を行った。

### （3）意見交換

最後に意見交換を行った。主な意見は次のとおり。

- 測位衛星信号が正しく認証されることが前提となり、それに基づいて、社会の様々な分野で位置情報・時間情報が活用され価値を創出していることを再認識した。
- 20 年後、30 年後を見通すと、宇宙に人が居る状態になっていると思われるが、これは衣食住や医療など地上で必要なものの全てが宇宙でも必要になることを意味する。全体を俯瞰し、スマートプラネットと捉えれば、大きな市場を見込め、それに向けてやることはたくさんあるが、企業にとって 30 年後を見通した長期的な投資をすることは厳しいのが現実である。
- 一般の方の宇宙への関心が上がってくると、宇宙事業へ投入する予算が増えるはずである。リモートセンシングデータによる海外人口推計データは、一般の人の目線でも面白いと思えるのではないかな。
- 地上の通信ネットワークがどんどん高速化・大容量化しているので、今後、衛星のポテンシャルを上げるための技術革新が必要である。
- ウィズコロナ・アフターコロナの非接触社会において、地球観測や通信のための衛星利用がますます増えていくと見込まれる。
- 宇宙で取れるデータを複合的に組み合わせることで、より価値が生まれるのではないかな。
- 日本において宇宙への関心度・理解度が低いところに本質的な課題が隠れていると考えているが、「経営層やリーダーの関心度が低いこと」と「一般国民の関心度が低いこと」に分けて考えるべきである。「リーダーの関心度」については、日本のリーダーは宇宙を夢と考えている人が多く、夢相応にしか投資しないのに対し、米国のリーダーは宇宙を現実のものとして捉えて、重要技術として、莫大な投資をしている。この意味で、成長戦略等の国としてのアジェンダに宇宙が入ると意味合いが大きい。「一般国民の関心度」については、宇宙飛行士に加えて、日本にビジネスパーソンヒーローが生まれることがきっかけになるはずである。また、初等教育も重要である。

以上